

三度の飯より獅子が好き。

獅子の花道

長楽寺獅子組連 氷上八幡神社



近年、三木町では頭を上下左右に振りながら華々しく派手に舞う「牡丹崩し」型の獅子舞が増える中、動きはおとなしいながらも、仕草の一つひとつにアーティスティックを追求した「平獅子」を守り続ける獅子連がある。氷上八幡神社の長楽寺獅子組連だ。「平獅子」の動きはおとなしく簡単そうに見えるかも知れませんが、おとなしいゆえに誤魔化しも利かず難しい。でも、そこが面白いんです」と獅子連の皆さん。とくに、練り歩くときは同じ姿勢を保ちながらゆっくり動かなければならないため技術的にも難しく、体力的にもかなりハードなのだそう。併せて、手先では目・口・耳を操るので、舞った次の日は腰や腕がパンパンになるのだとか。それでも、「うちの獅子連が目指すのは、獅子の息づかいや鼓動が聞こえてきそうなほどリアルな獅子舞。そこは妥協することなく頑張っています」と力強く語る若いメンバー。次世代を担う若い獅子使いがたくましく育っている長楽寺獅子組連の未来には、たくましく華麗な花が咲き乱れている。

「自分たちだけでなく、獅子舞を見ている人たちをもっと楽しませたい。もっと獅子舞に親しんでもらいたい！」そう語るのは、天枝獅子保存会の若きリーダー内原さん。西へ東へと、いろんな獅子舞を見に行くという、かなりの獅子ばっことだ。天枝獅子保存会の獅子舞は、奉納としての舞だけではなく、魅せる獅子舞を意識した親子での演舞が特徴的。これまででも、獅子頭にストロボを取り付け夜の暗闇をバチバチと照らしながら舞ったりと、見る人を驚かせるような演出にも挑戦している。「代々受け継がれる伝統は守りつつ、新しい時代の楽しさも取り入れていきたい。獅子舞を次世代へ繋ぐためにも、今の時代を生きる我々が盛り上げていかないと」と語る内原さんは、今回初出場する小獅子道舞でも新たなサプライズを考えているそう。「今はまだ秘密ですが、皆さんに楽しんでもらえると思います」と自信の笑みを浮かべながら話す内原さん。今年の小獅子道舞は、何やら賑やかになりそうだ。

美味しいスイーツよりも、かわいいアイドルよりも獅子が好き。
三木を見渡しや、猫もしゃくしも獅子好きばかり。
獅子のためなら、祭りのためなら、えんやこうさつさ。
今年も魅せます、咲かせます、獅子の花。



川原友獅会

氷上八幡神社



昭和50年代に奉納ができるない状況に陥り、一度は獅子舞の火が途切れかけたが、地元の有志が集い、復活を遂げた川原友獅会。今年も、「三木まんで願。」の小獅子道舞で華麗な舞を披露する。川原友獅会の獅子舞は牡丹崩して、親と子どもの獅子が共演する親子獅子。「川原友獅会の伝統は“自由に舞う”で、演者の“個性”や“らしさ”を生かした獅子舞になっているのが特徴。たとえば、親子獅子を舞う時は、親子の動きをきちんと揃えるのではなく、子どもは子どもらしく自由に舞うようにしている。これは、人間も動物も子どもは伸び伸びと動くものなので、あえて不揃いを演出することで自然な空気をつくっているという。また、「牡丹崩し」の一番の見せ所は「ノミ拾い」と語る川原友獅会。太鼓でなく獅子がリードでき、自分たちの個性をしっかり表現できる“ノミ拾い”には川原友獅会らしさが凝縮されているのだと。」「犬や猫が足で身体を華々しく搔きむしっていてかのようなリアルな動きには自信あり」と川原友獅会の皆さん。数多くの獅子舞が一堂に集まる小獅子道舞。それぞれのノミ拾いを見比べてみれば、より一層楽しめそうだ。



天枝獅子保存会

雷八幡神社